

ヤマハニュース

YAMAHA NEWS No.174 DECEMBER 1977

特集

Good Bike for Good Life

第22回 東京モーターショー

新
発
売

ヤマハ
YZ125/250

12

私とバイク



沼田 早苗

私が生まれた年、それはまた、わが家へバイクが初めて現われた年でもあります。

当時は自転車が多く、バイクは一種のステータスシンボルとして、とてもカッコウのよいものだったそうです。どこへ行くにもバイクと革ジャンパー姿の父は税務所に行き、お役人に「随分よいカッコウをしています。不」にられましたこともあったといっています。

私が幼稚園に通い始めた頃、今度は私がバイクを好きになり、アクセルを吹かす音がすると絵本をほうり投げ、バイクを見に外へ飛び出していったものです。私ひとりでは座ることのできなかつた大きな乗り物への魅力と、父に抱き上げられる時の足が地から離れる瞬間

間の感触と、その足が空に舞う感覚がなんともいえなかつたのです。

多摩川の土手を風を切って走っていると、ちよんぱジャマのようなユニフォームを着た巨人軍の選手達が縦横無尽に動き回っていました。その中には川上選手がいて、たぶんいまの長島監督や王選手もその頃はタマ拾いをしていたのかもしれませんが。

幼な心に焼きついたバイクとの楽しかった日々。しかし、10年近く乗ったバイクも、やがてはオンボロになり、どこかへ持っていかれてしまい、その時はもう兄弟がいなくなつたような寂しさがこみ上げてきたものです。

私とバイクとの歴史、それはこれら10年程の父のバイクとの想い出が大部分ですが、いまはどんな家庭にもバイクがあるといつてよい時代。女性のバイク愛好家も珍らしくありません。バイクの走りのさわやかなスピード感や、その新鮮な視界のすばらしさ。ファッションとしてもまたバイクは楽しいホビーの世界を広げます。私の心に残されたそうしたバイクのイメージは今の私のアングルともなっているようです。

ちなみに、私とバイクの生まれ年は昭和23年です。

沼田 早苗 (写真家)

YAMAHA



Good Bike for Good Life

新しいバイクの世界

2年おきの開催になって今年で2度目、第22回東京モーターショーは10月28日から11月7日までの11日間、東京・晴海の国際貿易センターで幕をあげました。海外メーカーや外国政府の参加もあって、ひときは国際色をつよめたのが今年のショーの特色で、「みんなのくるま、みんなの世界。」のテーマのもとに99万2100人の入場者がつめかけました。

こうした中で二輪車館の人気は前回に増して高く、スポーツバイクコーナーでは若者たちのかん声がかどましたものですが、そのいっぽうで、最近のバイクの日常生活への浸透ぶりを物語るように若い夫婦や家族連れ、女性同士の姿がミニバイクやファミリーバイクコーナーにみられ、バイクの手軽な走りが楽しめるファミリーバイクランドも終日たいへんな賑いぶりでした。

それはまさにヤマハが提唱する「グッド・バイク・フォー・グッド・ライフ」の世界を示すもので、あらためてバイクに寄せる人々の大きな期待が感じられたものです。ここに数々の話題作を展示して圧倒的な人気をあつめたヤマハコーナーのご案内をかね、会場を訪れた3店の販売店さまのヤマハコーナー印象記をおおくりします。また会場では多くの販売店さまから暖かいご声援をいただきました。誌上から厚くお礼申しあげます。

一家に二台から一人一台へ。 定着したファミリールーバイク人気。

バイクに無縁だった人々の心をとらえ、新しい需要の世界を広げたファミリールーバイク。パツソルをはじめ、チャピイ等のファミリールーバイクこそ「グッド・バイク・フォー・グッド・ライフ」の核をなす商品です。そして、ファミリールーバイクの普及はすべてのバイクの「市民権の確立」にもつながるのです。ヨーロッパの街並みをバックに、バイクのある暮らしの楽しさを豊かに表現したヤマハコーナー。なかでもファミリールーバイクコーナーの設定には、だれもが自由にバイクのもつさわやかな魅力を味わい、確めてもらおう場としてスペース取りも十分に、のびのびとした会場構成を展開しました。

「いやあ、好感が持てますね。ヤマハコーナーは。豊かな商品構成に加えて、お客さまとの一体感がある。感じいいですよ。私つくづく感じたんですが、もはやモータ

ーショーは単なるお祭りではないですよ。それはまた、PRでも説得の場でもなく、メーカー、ユーザーの両者が、良い商品とは何か?といった共通の認識の上で立っての確認の場となっているのですね。」

ヤマハのファミリールーバイクコーナーを目前に、開ロ一番こう語るのは埼玉県入間市の若月オートサイクル・若月正吉社長です。今回の東京モーターショーは、正子夫人とお嬢さん、そして従業員丸山陽司さんの4人で訪れました。

ファミリールーバイクの 人気に溢れる自信

「ご商売の6割強は原付バイク。しかも、その大半はヤマハ原付免許教室で獲得した女性のお客さまという若月社長。ひととおり会場を見回った後に再びファミリールーバイクコーナーに戻り、語ってくれた印象は次のとおりです。

「今回のショーで、このヨーロッパの街角に代表されるファミリールーバイクコーナーを、並入るビッグバイクにも負けず劣らずのスペースをさいて構成したことは、ヤマハの新規需要層の喚起に対する熱意の現われといえるでしょう。私たちとしても、少なからずこの熱意に添えて

さらに新しいユーザーの開拓を進めなければと、気が引き締まる思いでいっぱいです。

チャピイ、そしてパツソルと、ここ数年にわたるヤマハのファミリールーバイク政策、とくに女性にマトを絞った政策は、あらためて話すまでもなく新規需要、とくに女性ユーザーを大幅に増加させていますが、その自信が会場作りにも反映しているみたいです。これまでも何回か東京モーターショーに足を運んでいます。こんなにも女性のお客さまが多く目についたのも、初めてのことで

一人二台の時代はもうそこ

今回展示のヤマハバイクは全部で55台。そのうちファミリールーバイクはパツソル10台を筆頭に、チャピイ8台、ポピイ2台の計20台で、展示バイクの約4割を占めています。

「さすがに若者の間ではビッグバイクが人気No.1ですが、パツソルやチャピイのコーナーもそれに負けない程いっぱいの人だかり」とは、奥さまの正子さん。また、丸山さんもこれに添えて、「やはりヤマハ車の人気の秘密はデザイン的美しさですよ。チャピイのかわいらしさにして、パツソルのステップスルーにしても、まさに女性の



チャピイを前に(左より正子さん、若月社長、丸山さん)



「教え方さえ正しく身につければ」と乗り方指導に意欲を燃やす正子さん
 年齢、性別を問わず人気を集めたファミリーバイクコーナー



ヨーロッパの街角を背景に展示されたパッソル

心を射抜くだけのシャレたセンスを持っていますからね」
 会場の中央を占めるヤマハコーナー。なかでもこのファミリーバイクコーナーは、ほとんどの観客が立寄る一等地です。そして、そこには家族連れが、アベックが、またお年をめしたご夫婦がコーナー狭しと並んだバイクに腰かけて、思い思いの姿で心ゆくまでバイクの感触を味わっているのです。

「ご覧なさい。ここに集まった人たちの層の幅広いこと。しかも、皆がそれぞれのかたちでバイクに対して関心を示しているではありませんか。今やバイクは見るもの、乗せてもらうものの時代から自分が運転する時代へと、言いかえるなら一家に一台の時代から一人一台の時代へと進んでいるんですね」

ヤマハのファミリーバイク群の人気を目の前にして若月社長も、今さらながら驚いていたものです。

指導力の差が商売の差にも

さて、二輪車館を出て右手、南口ゲート脇にはバイクの正しい乗り方と走りの楽しさを味わってもらおうと設置したファミリーバイクランドがあります。ここにはヘルメットや手袋が用意され、好みの50ccバイクに乗れるとあって若い男女がいっぱい、さながらヤングの広場といった感じですよ。

ここで活躍いただいたのは、奥さまの正子さん。正さんは、パッソルに乗らない日はないという。ヤマハ奥さまですが、この日は特に肌でこの雰囲気を感じてもらおうと、若者たちにまじって試乗をお願いしたものです。

「主人が二輪車安全運転推進委員会の指導員なので、もっぱらお客さまの乗り方指導はまかせっきり。でも、実際にインストラクターの指導を受け試乗してみても、教え方さえ正しく身につけさえすれば私にだって指導できることがわかりました」とは、正子さんの感想ですが、若月社長も「バイク販売に切っても切れない免許教室と乗り方教室。それこそ、これからはその指導力の差が、商売の差にもなってくる」と今後の方向を指摘し、あらためて乗り方指導の必要性をかみしめていたものです。

バラエティに富んだモデルさまざま、 ヤングの焦点・スポーツバイク

ファミリーバイク・ブームのいっぽうでお店の主柱をなすのがスポーツバイク市場。それはこのマーケットが50cc、400ccの別なく若いお客さまを主流に展開していることからその重要性がますます認識されています。ヤマハではRD、TY、MRの50スポーツリオに加え人気のミニGT、GR、そしてモノクロス・サスペンションを装備したDT、さらには4サイクルGX、2サイクルRDなど多彩な商品構成を展開して人気を呼んでいます。今回のショーでは来春発売予定・参考出品モデルとして注目のビッグシングル・スポーツSR400/500を公開、スポーツバイク・ファンに格好の話題を提供しました。

原付、小型、中型、大型と段階的に区分された現在の免許制度に合わせて、豊富な車種構成で展開されたスポーツバイクコーナーは今年も若いお客さまの熱気がいっぱい。それぞれに好みをあらわした観察ぶりは、すでにバイクの魅力をわきまえたユーザーとしての敏感な反応がみられたものです。

こうしたスポーツバイクの人気ぶりを目前に、3人のお客さまと連れだつて会場を訪れた東京・三鷹のオートショップ古田・古田哲郎社長は、「グッド・バイク・フォー・グッド・ライフ」の世界を、お客さまともども次のように語ってくださいました。

需要促進の意欲わく 豊富なスポーツバイク群

古田さん一行がモーターショーを訪れたのは11月3日、文化の日。休日とあって会場は若者や家族づれで、約20万人の出入りにぎわいぶり。

2輪車館をひと回わりして、ヤマハコーナーでお会いした古田さんは開口一番、「やあここは熱気があるなあ、若者たちの人気も最高だね」とたのもしげな表情。「とにかく、これだけの豊富なバリエーションでしょう。お客さんは選ぶのにうれしい悲鳴を上げるって感じですよ。」



これから「Good Life」を楽しむ遠藤さん
中に、みなさんのバイク談義はつきない

からまだ2年たらず。しかしこの間、古田さんは持ち前の若さとファイトでがんばり、関係者もびっくりする程の急成長をとげました。

というのも、古田さんはセニア入り目前でモトクロス界を引退したガッツなスポーツライダー。その当時つちかわれた「やる気」はお店を持ってから大いに役立ち、積極的な経営で発展を続けているのです。

その基盤となるのは、活発な需要創造活動です。「免許教室はすでに販売店にとって不可欠なものです。その他にうちの場合、とくに来年はミニバイクレースやツーリングで需要開拓に力を入れていきます」

ずらり並んだヤマハスポーツバイクに触って、乗って、あれこれ品定めをする若者たちを見ながら古田さんは、さらに「彼等のあの楽しそうな顔はどうです。彼等にバイク本来の楽しさ、バラエティに富んだ走りの世界を教えたいものです」とバイク仲間の先輩としてのお話。

「ということ、販売店の立場に立つて見れば、そうした活動は単なるユーザーサービスだけでなく、原付から小型、中型、そして大型、さらにはこの逆に大型や中型から原付、あるいはトレールモデルへと代替促進、新規需要の開拓に大きな働きかけともなるものです。そのためヤマハのスポーツバイクは、このとうり一段と充実しましたから」とは経営者としてのお話です。



○バイクランドでは正しい乗り方の指導も受け、遠藤さんと平沢さんは充実した一日を送った
 今春発売予定ということで、SR400の人気もひときわ高かった(写真前列の中央右から山田さん、古田社長、平沢さん、遠藤さん)



古田社長の会話には人をひきつけるものがある

すでに予約申込みも 来春発売予定のSR400

古田さんと一緒に見えたお客さまは山田雅之さん、遠藤晴彦さん、平沢清美さん。山田さんは、古田さんのかつてのモトクロス仲間、XT500を愛用。遠藤さんと平沢さんは同じ高校の2年生で、遠藤さんは原付免許を取得したばかり。平沢さんはMR50のオーナーです。

平沢さんはこれから中型免許を取ろうということで、その目は来春発売予定のSR400にくぎづけ。これは、同じ4サイクル・シングルのXTに乗る山田さんも同様。「すごい、早く乗りたいな」と平沢さんと遠藤さんが声を揃えれば、「ついにやったか、さすがにヤマハだ、思いついたことをしたなあ。750、650スペシャル」もそうだけどすばらしいデザインだねSRは、XTに乗る身にとってはとくに魅力的だね」と山田さん。

これを受けて古田さんは「乗り易く余裕のあるバイク。単にパワーを求めるだけでなく都会的センスがある。またデザイン的な良さだけでなく、メーターの見易さなど細かい所に神経が配られている。うちではすでに予約があるんです」とその人気のほどを話していました。

また、平沢さんにとっては11月から新発売になったDT125も興味の的。モノサスのDT250が出た時から、125のモノサスも早く出ればいいのと思っていただけにこれにも乗って見たい。まったく迷っちゃうよ、2台持てればいいんだけど……」

そこで先輩の山田さんが「レース活動の成果が出ているモノ・サスのトレール車はヤマハならではのバイクだね」と言えば、古田さんは「来年は林道ツーリングもやるつもりですが、そんな時このDT125はぴったりキマルって感じ。もともとオフだけでなく、オンロードの走りも充分楽しめるのが、このバイクの良さですが」という説明。

一方、モーターショーは初めてという遠藤さんは「すばらしい、圧倒されちゃいそう」と感激の声を上げながら、平沢さんと一緒に次々にスポーツバイクにまたがり、バイクランドで乗り方を教わったり、来たるべき「グッド・ライフ」への期待に胸をふくらませていました。

ビッグダマシンとレーサーに、 高品質・高性能ヤマハス。ピリットを見た。

ゆとりある走りの世界を堂々と表現してバイク・ファンに限りないスポーツごころを抱かせる頂点モデルがビッグ・マシンです。ヤマハでは輸出仕様モデルとして先にご案内した国産車最大のXSイレブンをオプション装備で、また個性的な乗り味を新しいスポーツ感覚で表現したXS750SE、XS650SEの両スペシャルを参考出品として展示したほか、話題のビッグシングル・スポーツSR400/500、さらには高品質・高性能ヤマハの尖兵、ロード、モトクロスチャンピオン・マシンに加えてV4・水冷・DOHC・燃料噴射方式のYZR1000を公開、大きな注目をあつめました。

連日、熱っぽい雰囲気につつまれた二輪車館の中で、圧倒的な人気を呼んだヤマハのビッグバイク/レーシングマシン・コーナーはまさに今回のショーのハイライトでした。

コーナー中央の2台のテーブルにのせられたのは4気筒DOHC1102ccのXSイレブン、そしてV型4気筒・水冷・DOHC・燃料噴射のYZR1000です。これら最先端をゆくヤマハ技術のもと、ロードで、モトクロスで圧倒的なつよさをみせて世界チャンピオンを獲得したYZR750、YZM400が、XS750SEスペシャル、XS650SEスペシャル、そして注目のビッグシングル・スポーツSR400/500と共に展示されています。

まさに圧巻のヤマハ・ビッグバイクコーナーで、見る人の心をとらえずにおきません。

こうした中を、ビッグマシンのお客さまと訪れたのが横浜市港北区の丸富オート販売・長田憲治社長です。

「Vフォーとイレブン」

あくなき技術開発の姿勢に感銘

「ヤマハコーナーばかりでなく、二輪車館全体を見まわ

した時、あらためて「XSイレブン」と「YZR1000」には、やったあーという強烈な印象をうけたものです」

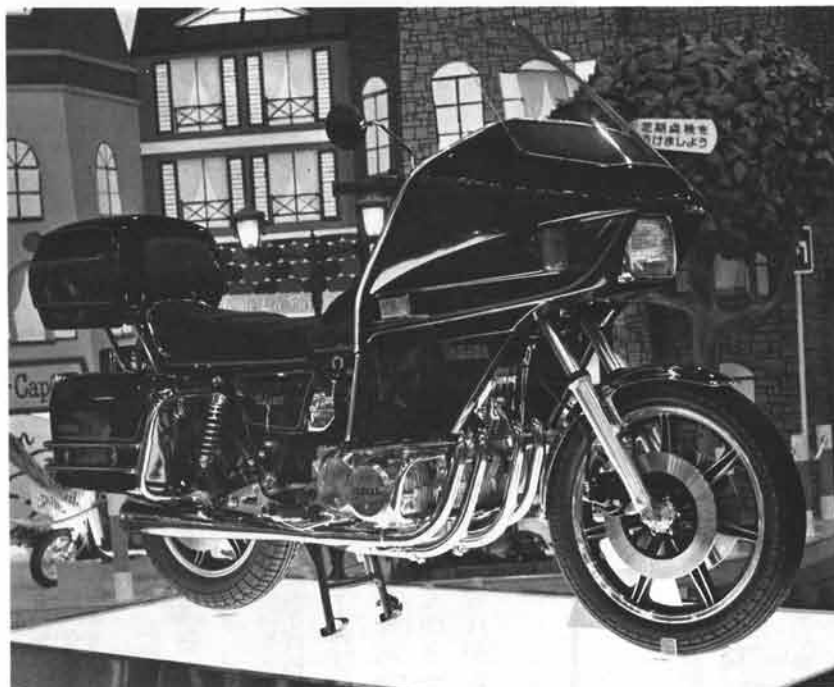
「商売の50%は、中型、大型二輪とおっしゃるだけに展示車に注ぐ長田社長の視線には鋭さを感じられます。「このVフォーは、2サイクルかと思うほどコンパクトにまとまっていますね。あの中にDOHC、水冷4気筒というハイメカニズムが秘められているとは……。それと「XSイレブン」いいなあー。これだけを見ても技術開発にかけるヤマハのなみなみならぬ意欲が感じられるさすがです」

「確かに国内の大型車市場は、樂觀できる状況にない。急速な需要の拡大は望むべくもない。こうした中で、さらに拡販をはかるためにはキャリアのある正統派ユーザーが心酔するような、高度なバイクが要求されてくるわけです。その一つがハイ・メカニズムであり、快適な走行性能であり、安全を守る各種の用品類でしょう。とくにそれと大型車のお客さまは、これからはスピードの魅力だけではなく、そのバイクの「乗り味」とか「フィーリング」、そういった性能・安全性に加えたサムシングを大切にしてくると思うのです。それだけに「XSイレブン」をはじめ「XS750/650」のスペシャルは魅力ですね

それと「SR400/500」は、ビッグマルチを乗りこなしたベテランはもとより、これから中型、大型にと



じっくりと見て、触って、「高品質、高性能ヤマハ」を確認する
長田社長(右)、清水さん(左から2人目)、伊従さん(左端)



「驚異のハイメカニズム！」と注目を浴びた「YZR1000」（右上）とスーパーバイク「XSイレブン」。まさにヤマハ技術の結晶だ



ビッグシングルの鼓動が伝わってくるような「SR400/500」とぞん新なスタイリングが人気を集めた「XS650/750スペシャル」のビッグバイクコーナー



またがって、足をつけて……やはりビッグバイクは若者のグッドライフを大きく彩るもの

待たれる来春の登場

期待の新商品「SR 400/500」

「いっぽう「Vフォー」やイレブンは何かパンチを喰ったみたいだ」と口をそろえるのはお客さまの清水諭さんと伊従宏さん。お2人とも正統派ライダーとしてビッグバイクを楽しんでいます。

ヤマハ車だけでも5、6台、7年間に20台近いバイクを乗り継いだという清水さんは「特に今回出品のビッグスポーツには、ヤマハらしいセンスを感じますね」といいながら、中でも「SR 400/500」につよい関心を示していました。

「XT 500が発売された時から、これのロードスポーツ版が欲しいと思っていたのですごく嬉しいです。ビッグシングル独得の味はマニアにはたまらないものですか」と語り、ハーレーのオーナーでもある伊従さんは「XS 750/650スペシャルのあのスタイリング、段付きの低いシート、650のワイドなりヤタイヤ……なんとも印象的でした」と目を輝やかせます。

「いまの若者の指向というのは、すべてにアメリカ・ナイズされていますね。ファッションから遊びまで。そうした中でバイクも、ゆったりとロングツーリングを楽しむような走りが見直されてくるんじゃないかな？ そうなるとこのXSスペシャルのようなスタイリングは最高。特に低速トルクも十分な4サイクル・ビッグスポーツとなれば、スタイリングとエンジンがうまくマッチして、また新しいバイクの魅力が生まれてくると思うのですけど」

こうして人ごみの中、額に汗を浮かべながら話題のワークスレーサーとビッグスポーツに熱いまなざしを向けるみなさん。かたわらの市販車コーナーでは、GXシリーズやXT 500にまたがるお客さまが相つき、「グッドバイク・フォー・グッド・ライフ」時代の定着ぶりがかがえたのでした。

もり沢山の話題にわいたヤマハコーナー。 ビッグシングルス。ホーツの出現に拍手。

これは東京モーターショーが幕を開けて4日目、専門誌紙で健筆をふるっているジャーナリスト、横内一馬、福水 頌の両氏に忙しい時間をさいて語っていただいたヤマハコーナーの話題あれこれ。注目の出展車から両氏は何を感じ、どんな思いをさせたか、卒直に話し合われたことをまとめたものです。新しい数々の商品を得て、新しいバイクの世界が広がりがつつあるいま、われわれ作る立場、売る立場にある者が、お客さまにどう対処していくべきか、さらには技術的な発展傾向まで含めて話はいろいろと盛りあがりましたが、ここではショーモデルを中心に構成しました。これからのご商売にお役立ていただければ幸いです。

(誌上敬称略／文責・編集部)

二輪車館に増えた家族ぐるみ・女性客

福永 モーターショーの一つの大きな特徴は、会場に行ったら目差す現車をいじれる、さわって、跨ってみられる、最もポピュラーな50ccに限って言えば、実際に乗って走らせることもできる。初心者、経験者を問わず、正

しい乗り方をちゃんと教えてくれて、乗せてくれる。ファミリーバイクランドというのがそれだけど、これがモーターショー、二輪車館の大きな特徴だね。横内 そうだ。それと秘蔵のモデルが見られ



チャビイを囲んで女性が3人。キックしてみてこれなら平気とか……。楽しいバイク談義はあちこちで

る、まア、実際にはそのまま売られるのかどうか、あるいは現状では日本のマーケットに出られないけれども、輸出用のビッグマシンなどがみられる、そんなところが人気を呼んでいるのだろうか。

福永 パツソルなんか、ミニをはいていたってスラックと乗れるものだから、もう女性も堂々と、手当り次第に乗っちゃうという感じだものね。で、隣りで連れの彼氏が彼女のハンドバックなんか持つちゃって一所懸命説明している。これでうまく説明してくれば、もう次はユーザーというわけだ。販売店さんにとってこんなウマイことはない。(笑)

横内 隣の奥さんがバイクを買った。うちでもひとつ、と思っただけで、女の人にとってはなかなか販売店へは行きづらい。まして販売店の店先で、ちょっと跨らしてくださいという勇氣はない。何かのきっかけで例えそうなっても変な義理ができてしまう感じ……。福水 スーパーでちよっと手にとって見ると

さりやいにくいね。それにしても、女性のお客さん、家族ぐるみのお客さんが増えたね。それで、見ているとその好みの傾向がはっきりわかったね。若いカップルは一樣にファミリーバイクコーナーに立ち止まる。彼女がバイクに乗って、彼氏が説明役に回る。高校生と思えるヤングたちは面白い。それから原付にアタックしようというか、あるいはもう50cc免許は取ったと見られる連中は50ccスポーツバイクにまず直行する。すでにバイクには乗りなれたという連中は中型、大型のスポーツバイクだ。そして、ヤマハでいえばXSイレブンやYZR1000、あるいは話題の単コRSR、650、750のスペシヤルに足を運び、目を光らせる。

横内 それは微笑ましいものだったね。あれだけバラエティある機種がならべられているということ、要するに、気が変わればすぐ上のクルマにもエスカレートして比較できるということね、これがモーターショーの魅力です。

ビッグシングルの待望論にヤマハが一番解答

福永 そこで、今回のショーのハイライト、ニューマシンなのだが、話題の焦点はビッグシングルのロードスポーツ、SR400、SR500というところだろうか。

横内 まあ、いろいろとあるが、実際に国内のユーザーが現実のマシンとして懐と相談して考えるものといえば、やっぱりこれはSRだろうね。参考出品とはいえ、来春発売予定というのがきいている。それと、いままでの商品にはなかったもので、お世辞ぬきにしてこれは目玉だ、といえるね。ビッグシングル待望論というのは、一部のマニアの間ではかなり以前からくすぶっていたものだから。

福永 そうしたビッグシングルについての憧

会場取材中の福永 頌氏。2輪、4輪を問わず多彩なレパートリーで広く活躍している。



じっと鋭い視線で展示車を見つめる横内一馬氏。専門誌に寄せるテスト記は評価が高い。

れとはなんだろう。これについて考えてみたんだが、大雑把にいうと、それはマルチに対するひとつの反省、それもあろうけど、多分にユーザーの移り気という部分があるように思う。確かにマルチの車の面白さにあきたという人はいるでしょう。だけれども、シングルのほうがいいときっぱりいえるのはマニアもごく一部の人に限られると思うんだ。

その点で、非常に扱いのむずかしい商品であるような気がする。つまり、ある部分では非常に高く評価され、満足させられるだろうけれども、より広く、大きくカバーできるものじゃない。

横内 その辺は半々だと思ふ。確かにユーザーは移り気だし、MCについてこれといった定見を持っている人は非常に少いからね。しかし、いっぽうでマルチゆえに苦勞を味わっている人もいる。例えば4個ならんだキャブの一つがオーバーフローしていても、下から見えているチャンバーに手が届かない。きっちり組込まれていて手の入るスペースがないわけよ。それでディーラーに持っていったらハイヨっていうわけにいかない。タンク外して4連そっくりのアッセンで外さなければ取

れないからね。しかもちよつとガソリンだせばニードルのゴミなんか飛ぶような、昔なら一銭もかからないようなものが時間当りウン千円という工賃でしよ、これはユーザーとしてたまらん、ということがあられるわけ。

もちろんマルチはいい。静かだし、スムーズだし。しかし、いっぽうじゃ眠くなっちゃう、面白くないよという声もある。もちろんよさを認めての声なんだけど、そんな具合でなかなか一線はひけないわけよ。この間もあるテストで、タイムは出ているのに速くないと乗り手はいうわけね。だからバイクにはある種のスポーツフィーリングというのには重要で、二輪らしさとは何か、その魅力に触れている、触れようとしている層の中には、やっぱりマルチ、マルチよりツイン、ツインよりシングルと、単気筒の受入れられる要素がかなりとあると思うんだ。

そういうことで、商品がよりコンパクトになり、軽量化されればメリットが大きく浮びあがってくる。それが、単気筒でロングストロークですから背が高いんです。足がどきません、これは当たり前です、じゃとびつかない。そういうところがきちんと処理されて足もべつたり地につけば、クルマもシングルだから軽いよ、ほら押してご覧なさい、というのならこれはウケるね。

おっ、ひよつとするとマックスより速いぞ

福永 シングルはシングルなりの良さがなきやダメ。それは確かだ。そこが技術屋さんの競争になると思う。マルチだよ、スムーズだよ、音も静か、振動も小さいよ、スラックと走つちやうよ、という良さを売りものにするいっぽうで、いまの話のように、振動もある程度あります、そのかわり軽いよ、身軽だよ、敏しように行けるよ、という良さはまた別もので、ここは売り分けのポイントとなる。

でXT500というビッグシングルがあるのだから、経験はあるしね。

横内 XT500と比較しちやいけなければ、このSRはおそらく足の速い車に仕上げられていると思う。格段にいいクルマで、じゅうぶん期待している。というのも、XT500はエンデューロということで、いろいろとエクスキューズはつけられるけれど、ロードとなればそうはいかない。乗ってみたわけじゃないけれど、振動にしても、取りまわしにしても格段にいいと思う。

福永 問題があるとすれば始動性だ。新たにキック・インジェクターがついているが。

横内 始動性は問題だ。400、500の単コロをスパットと一発のキックでかけるのは非常に気がいいものだが、あれを最初の人に売るときに、販売店さんが汗かいて、かけてやって渡すようじゃ困るね。一発でかかれればウケることは確かだ。乗りだせばシングルの

来春発売予定というキャッチがきいて、ひときわ脚光を浴びたのがビッグシングル・ロードのSR400(写真)／500



横内 ま、とにかくユーザーは非常に気まぐれだし、新しもの好きで、人の乗っていないものに乗りたいたいわけよ。だから、やっぱりSRが出れば、ロードモデルだし、売れると思う。それと一つは、やっぱりマルチより安いだろうからね。コスト的に考えるとペラボにちがわなことはないと思うけど、アフターなど考えるとシングルはラクだし……。

福永 エンデューロとはいえ、ヤマハではす

味というのは、これはすばらしくいいものがあるからね。

福永 真先に乗ってみたいし、キック・フィ

リングがどうか、試してみたいね。
横内 こうしてビッグシングルをロードの世界にもちこんだことで、ヤマハは他メーカーに先がけて先手を打ったわけだが、その前向きな姿勢には大いに拍手したい。それと同時に、ビッグシングルの良さというものを今度逆は、メーカー、販売店がこれからのユーザーに教えてやる必要がある。マルチがどう、シングルがどうという以前に、二輪に乗る楽しさ、二輪を持つ楽しさにはどういふものがあるか、キックの足ごたえから上死点をさぐる、体感として得るトルク変動、走行フィリングなど、二輪の楽しさはこんなところにもあるのだ、ということも教えていくことも必要だ。もちろん、発売されればそれがすぐには味わえるわけだけれども。
福永 燃費なんかかなりよいだろうし。
横内 ああ、それは絶対に経済的だ。ま、と

いいセンいつてるヤマハのビッグバイク

福永 話は変わるけど、XSイレブン、XS750、650のスペシャル、いずれも輸出モデルの参考出品車ということだったが、これも話題となっていたようだ。

横内 それとV4の、YZR1000ね。

福永 レーサーね、あれはヤマハ技術力の誇示、いわゆるデモンストレーションをかけたものだ。XSイレブンの同じだね。1102cc、オーバーリッターということで、文字どおり国産車最大のクルマだけど、あれは確かプロタイプは1リッターだったよね。それが実際は1100で登場した。

横内 よそが1000でくるところを予測して先取りだろうね。4気筒で出すからにはよそにないものでいこうということだ。日本の



XSイレブンの豪華なインストゥルメント。まさに堂々たるライディングポジションはオーバーリッターの買録じゅうぶん

にかく期待は大だね。オツ、もしかするとこれは昔のマックスより早いんじゃないか、なんてね。(笑)、そんな楽しみ方で乗れるんじゃないかな。

ユーザーにとつては夢のクルマであるわけだけど、ヤマハも4気筒をやればこういうものが出るんだよ、というデモンストレーションだ。だから海外には出したからといってあれが750においてくるということは考えられない。今はどちらかといえばマルチからだんだんシングルのほうへ向かってきているわけだからね。だから、凄いな、凄いなで終らせないことが大切だ。あのイレブンの存在は上手に使うべきだろうね。

福永 国内のビッグバイク市場では、なぜかヤマハはおくれをとっているからね。

横内 そう、ビッグバイクが売れなかった原因は何か、これはよく考える必要がある。CB750からZ750、そのときのTX75

0はどうであったか、その反省の一つの解答がGX750で、3気筒のシャフトドライブということだけれども、今の技術でいけば何がわるいということはない。みんなトントんといえるだろうと思うの。だけれども何か一発ウケるものが足りない。それは何か。われわれ好きな者からいえば、メカ的な構造をよく理解して、ああ、よくヤマハはやっつた、例えはあれだけのシャフトドライブをやったんじゃない、ヤマハは儲りやしないよというくらい金をかけたシャフトドライブをつくってみても、ユーザーがポンと素直に受入れてくれるかどうかは、これは別なんだ。今つくられている750はまたさらに良くなっているよね、総合的に。それを今後どうアピールしていくか、この辺に売り方の問題がある。

ちよつとぜい沢すぎたスペシャルモデル

福永 アメリカといえば、XS750スペシャル、XS650スペシャルも明らかにアメリカに向けてつくられたものだね。輸出仕様

福永 お見合い写真と同じで、パツと見えない？と寄りつけるものはいい。ところがエクスキューズが沢山つくのはダメなの。この人は身体が丈夫、なんていつたって添ってみなけりや分らないものね。だから、今の時代は、良いものであれば売れるんじゃない、いいものを良くみせなければ売れない時代なんだ。それでないと商売にならない。

横内 むかしのTXのナナハンと、3気筒のシャフトドライブのナナハン、同じナナハンでもだんぜん良くなりましたよ、さらに初代のもより2本マフラーの今のナナハンはさらに良くなっていますよ、という本場のアピールが出来ているかどうか。ヤマハを作る、売る人たちが、買う人たちにね。
技術的にモノを見れば、生産技術にしても設計にしても、あれはダメ、これは最高というケタ違いの差はない。ヤマハについては走らせればよく走るし、本当にいいセンいつてるんだけれども、それがベテラン連中好みとなつて、逆にいえばそれだけマニアクな車なのかも知れないけれど、それで満足していたんじゃない、商売にならん。われわれがまったく安づくりにつくつたな、というクルマが、意外やどどんと売れているということと合わせて、上手なアピールの仕方が必要だ。技術屋さんの良心だけじゃない。
福永 良心というより、情熱だと思う。それを今後どう表わしていくか、つくる人、売る人が、それにしてもあのイレブン、時計に、ラジオに、ステレオカセット、グローブボックス付で、アメリカのディーラーミートイングはたいへんな反響があったと聞いている。
のデモンストレーションモデルなんだからもつと思いきったカタチでもよかつた。ちよつと関係筋に遠慮しながら出したような気がす



ヤマハコーナーの題材は豊か。それは談論風発まさにちようちようとして予定時間をオーバーした。ひだり福永氏、みぎ横内氏

る。でも、全体的にいつて、ビッグバイクにかけるヤマハの意気込みといったものはよく表われている。ヘー、あのGX750が、あの650がこんなに変わるの、といったたくすぐりをマニアに感じさせたことでは、国内のビッグ市場にはいい刺激剤でもあった。横内 あれはあれで、国内に出てきたら結構ファンがつくと思うよ。キャストホイールで売り出されれば、特にね。

福永 でも、ちょっとせいたくなくクルマだ。というのは遊びの精神がとよすぎるのではないかと。日本では、ほら、ちょっと気まじめな人というか一見気まじめ風なものの方が受け入れられやすいということがよくあるでしょう。それでね、あのスペシヤルにはそういう雰囲気がちよと足りない。どうせ遊びにしか乗れないんだ、というものに受けとられてしまうんじゃないか、だからやるなら思いきってやる、どうせ輸出仕様なんだから。そんなところでいわせてもらえればイレブンのほうが正統派だ。

横内 正統派とか、常識派といつても、今の若い人のユーザー心理はつかみにくいからね。

われわれとかなりちがったところがある意味で多いから。例えば、とにかく一つより二つのほうがよい。どうせなら四つのほうがよいといったようなこと。どうせ金を出すんだから1本より4本マフラーのほうがいいと平気でいう。これがユーザー心理だからね。それと目新しさ。だからキャストで出してくればカタチもいし売れると思う。

次の世代の商品づくり果すYZR1000

横内 目ばしいものを拾いうちしていくと最後はYZR1000か。これは確かにレーサーとしては凄いい、いいだろうと思つたね。

福永 V型4気筒、水冷、DOHC、フェュエルインジェクション、モノクロスサスペンション……と、まあ、いつてみればヤマハの技術の塊だ。それでね、このYZR1000で面白いと思つたのは、一つはV4、これは4気筒で幅をせまく、なんとか仕上げていこうとすればあいう形に落ちつくでしょう。それとヤマハのツインカム技術というのはいかになりすんでいる。トヨタのDOHCのエンジンはヤマハがつくつていてというのは知る人ぞ知ることです。ヤマハはツインカムについてはかなり造詣が深いわけ。これを一つ取り入れたこと、それからEFI、このフェュエル・インジェクションというのを手がけている。それと、もつと面白いことは実用車には使えないかもしれないといったモノクロス・サスペンションを、あのエンジンの、あのクルマにもつけたということ。とにかく、あの意味でいつと、ヤマハがトライしようとしていた最新のものをおのクルマに全部入れてみたわけね。しかもなおかつ水冷である。

まあ、水冷というのはかなりいろいろな問題があるわけだけれども、これは排気公害対策、騒音ということからもぜひ学んでおかなければならないことでもある技術だ。

福永 うん、それはそうだ。でもさういつた新しがり屋の中には物好きな人が多いし、さういつた人は社会からスポイルされやすい向きだからね。この辺がアメリカと日本の事情の違つところだろうけれど、既存モデルをベースにあれだけに仕上げたのはヤマハのデザイナールのウデのよきかな。とにかくうまくまとめあげたことは確かだ。

横内 でも、あれがあのままで一般車に即むすびつくといいものではない。水冷は問題がいろいろあるものね。

福永 もちろん、目先の問題としては即むすびつくといいものなんです。まず整備性冷はかなつたりいものなんです。まず整備性一つとつてもね。でも長い目で見て、メーカーとしていつれは経験しなければならぬことでもあるわけですよ。さういつと、将来ともヤマハが4サイクルのビッグメーカーとして大きく伸びるなら、まずあれでいい成績をあげなさい、といいたい。水冷、V4、ツインカム、燃料噴射といった出しもの、これはいままでのプログラムにはかかつてなかつたものだからインパクトがよい。ヤマハのことだから、おそらく必ずモノにすると思つけれど、今度はそれをベースに、次の世代の商品の出発点とする。これはなかなかうまい考案ですよ。

横内 1リッター・マシンがガンガン売れるよいうなにもなれば、それは変わったレイアウトのマシンといつことで、新規性は認められる。だけれども、生産性を考えれば水冷はノーだね。水冷でなくちやいけなといつことは今の技術ではないもの。もちろん、排気公害問題をつきつめて考えていけば、当然混合比は極力うすい方向にいき、水冷にしなければもたないといつところが出てくるよ



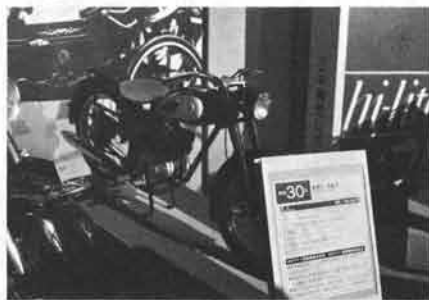
どのレースで、どんな新しい記録を生みだすのか、期待は大きいハイ・メカニズム・ヤマハの象徴「YZR1000」

になるだろうけれど、いつぼう商売として考えれば、メーカーとしては金はあるべくかけない方向でやつていきたいだろうからね。だから必要ならば全体にうすいセッティングで濃いガスがいつるときは加速ポンプで一時的におきなおうじゃないか、そんな方向に技術はすすんでいくのではないかと。出来ればメーカーも、販売店さんも、ユーザーも、シンプルでありたいものね、メカは。これがもつと排気規制がよまつて、もつこれ以上はガスはうすく出来ない、ぎりぎりに追いつめられてくれば、これはやっぱり水で冷やさうといつことになるだろうけれど、それまでは当分あまり複雑なものはない出てこないのではないかと、いづ感じ。これがぼくの予測だ。とにかく、これからの商売は、一つはコストの競争だからね。2サイクルの水冷と、DOHCと、コスト的には差がないといわれているくらいなんだから。福永 まあ、さういつといろいろな話題を提供してくれたのが今年のヤマハといつわけだ。よそ様がまだあまりお目につかないものを勢いでやつてみましたといつ技術力、その意欲は、たいへんなものでした。

思い出さまざま懐しの名車



「くるまがかたる/日本自動車・戦後30年の歩み」をテーマに、国産車の戦後の歩みを実車と写真パネルで構成したテーマ館。ヤマハからは第一号生産車のYA1型125cc(昭和30年)をはじめ、YD1型250cc(32年)、DT1型250cc(43年)、さらに世界ロードレース界に一躍名を轟かせたRD56(39年)およびRD05(41年)が出品されました。



YA1



YD1



DT1



RD05(左)とRD56

YAMAHA À LA CARTE

99万2千100人が 見て、触って、乗った 東京モーターショー

トヨタコーナーへの出張展示!? XT500とDT125が 小型トラックに

バンやトラックが居並ぶ商業車2号館。この中のトヨタコーナーで、ひときわ目を惹いたのが小型トラックトヨタ・ハイラックス。その積台上に載せられた特製キャリアにはXT500と新型DT125が積みこまれ、いままさにターゲットコースへ向かって出発という男のロマンがいつぱいの雰囲気が高まっていったものです。



スーパーカーから スーパーバイクへ! カメラブームが飛び火

ボルシェ、フェラーリ、ランボルギーニ...と、一時は騒然とまでいえるほどに高まりを見せたスーパーカーのカメラ熱。しかし、ヤマハ技術の粋を集めたV4型YZR1000とXSイレブンを前にして、さすがのスーパーカーも影が薄くなったのか、カメラマニアの人気はスーパーバイクに移った感じ。これら2台のバイクを展示したヤマハコーナーは連日プロ、アマを問わず多くのカメラマンによって賑わいを見せていました。



見ることも乗ったほうが! 50ccバイクゾーンを 占領した子供たち

自由に見て触れるショーともなれば、これは子供たちの天下でもあります。その関心たるやまさに熱狂的。もちろん、ヤマハコーナーにも曜日に関わらず大勢の子供たちが押し寄せ、見て、さわって、乗っての楽しいひとときを過ごしていました。とくに、豊富な50ccバイク群は人気の的で、パッソルへの関心も若い女性を激しく。お家へ帰ってお母さん、お姉さんに報告する姿が目にも浮んだものでした。

脈打つヤマハの新しい鼓動 衝撃のV4初公開



数々のエポックメイキングな作品を展示して話題をまいたヤマハコーナーにあって、またひときわつよい衝撃をともなって見る人の心をとらえたものが「YZR1000」である。

見るからに流麗なカウリングに身を包んだそのパワーユニットは、V型4気筒、水冷、DOHC、燃料噴射という新しいメカニズムのもの。それはヤマハの新しいチカラを表すものであり、あくことなくすすめられているヤマハ技術力の一端を示すもので、PR効果もまた絶大なものがあつた。(車輦重量190kg以下、最高速度は275km/h以上)

YZR1000

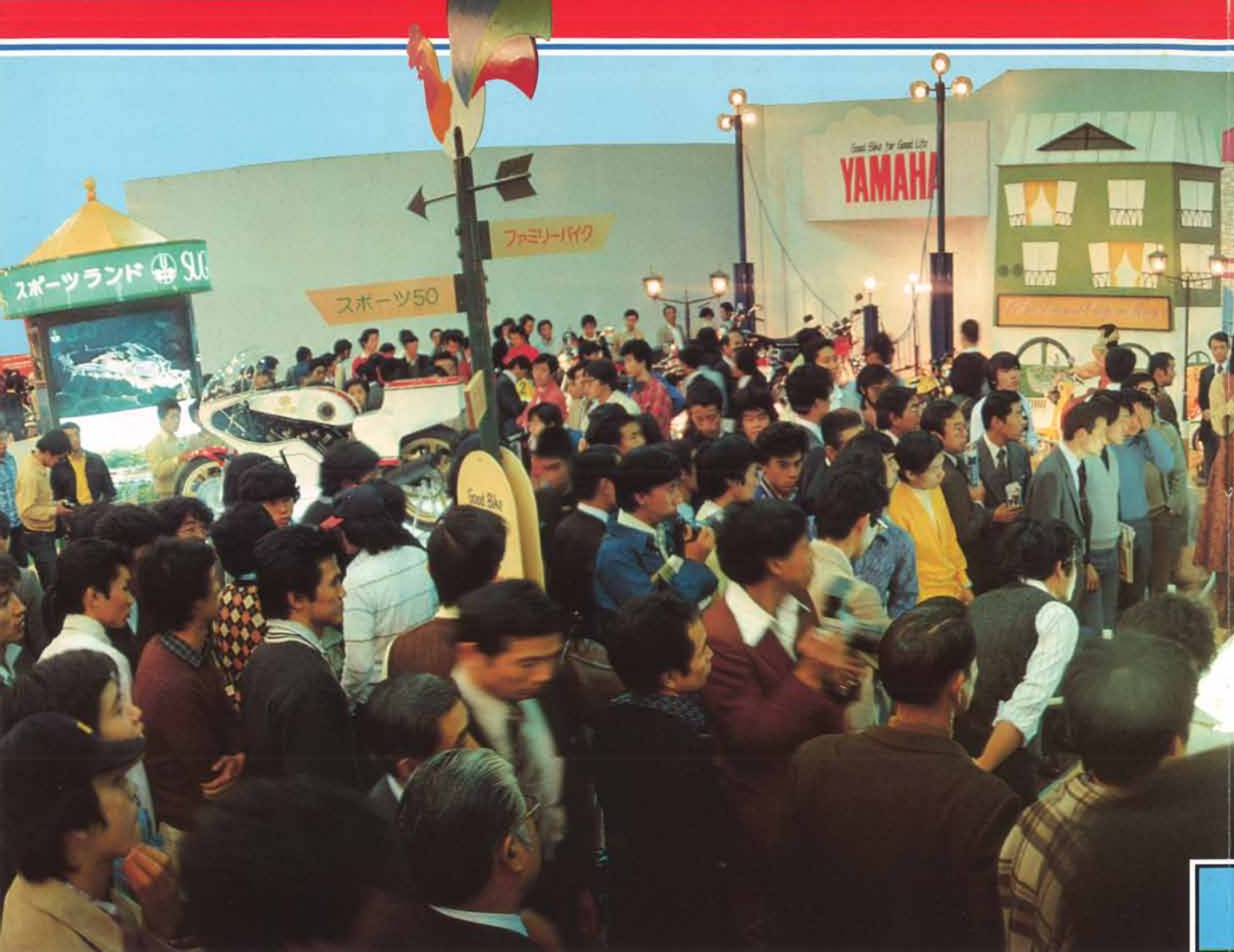


Good Bike for Good Life

バイクのあるすばらしい世界を広げよう



お馴染み「パッソル」もまた上々の人気モデルであった。年齢、性別を問わず、ステップスルーのやさしさを一度は試さなくては……の雰囲気、女性同士で、あるいはご主人が奥さんに、そして恋人同士は彼が彼女にと、このときとばかりバイク談義に話の花をさかせていたものであった



人、人、人で埋まった二輪車館・ヤマハコーナー。世界の街角を背景に、ソフトバイク「パツソル」でバイクのもつさわやかな魅力をイメージづけるいっぽう「XSイレブン」「YZ R1000」で高品質・高性能ヤマハの最新技術をアピール、話題のビッグシングルやビッグマシンを織りまぜて Good Bike for Good Lifeのすばらしい世界を楽しく展開した

熱い視線が交錯して話題うずまくビッグバイクコーナー。輸出モデル・参考出品の「XS 650 SEスペシャル」「XS750 SEスペシャル」のぞん新なスタイルリングと共に、注目のビッグシングル・ロードモデル「SR400」「SR500」に話題集中。来春発売予定の参考出品車とあって、この両モデルは人気のマトであった



ドック



いよいよ師走、あわただしい年末商戦もたけなわですね。一年のしめくり、そして78年商戦の下地づくりにと、一年のご商売でも最も大切な時期でもあります。

納車や集金に忙しく走りまわるご主人、お店を守る奥さまは寸暇を惜しんでお客さまへの年賀状書き……ともかく、日頃のチームワークをフルに活かして大きく乗り切りたい年の瀬です。

お店の整理

お客さまへの年賀状、日頃お世話になっている方へのお歳暮から忘年会やお店の大掃除まで、なにから手をつけたらよいのかとまどってしまうほど、しなくてはならない事が多い12月。手はじめにお店の掃除や整理・整頓から始めて、気分をスッキリさせますか!?

さてこの「整理」お店ではどんなふうになさっていますか? なにかも「しまっしょう」ことが整理ではありません。捨てる物を捨て、次に使うものが、最も手にしやすいように、きちんと片付けられているのが整理で、いわば新しいスタートラインに立つという気持ちで行ないたいもの。

特に二輪車販売店では、整然と並んだ工具類がお店の技術力を示し、部品や用品の大量展示が拡販に結びつくのはご承知のとおりです。ただし、季節外れのキャンベーン用ツールが色あせて、北風に吹きさらされているなどというのはいただけませんか。一度お店を外からじっくり眺めてみましょう。

忘年会

日頃のお仲間が集まってにぎやかに一年間をしめくくる「忘年会」、あわただしい12月の楽しみなひとときです。

お店によっては、クラブの「忘年会ツリーング」などを企画されている所もありでしょう。でも「にぎやかに飲み明かそう」というのが多分!?

しかし、二日酔いや悪酔いにはくれぐれもご用心。アルコールの作用で大脳が麻痺し、心身の抑制作用がなくなった状態が酒酔いですが、血液のアルコール濃度に比例して酔いも深くなります。

二日酔いは、日本酒などに多く含まれている高級アルコール・フーゼル油が原因ともいわれています。

まわりの人の明るい笑い声が頭にひびいてズキン、ズキン……では決してよいお酒とはいえませぬ。ちなみに、宴会やお酒が苦手の方に上手な飲み方を。清酒なら10分間に盃1杯、ビールなら30分にコップ1杯ぐらいのペースなら、血液中のアルコールの増加と分解速度がつり合って酔わない……という説があります。

もちろん「飲んだら乗るな……」は酒豪も下戸も同じこと!

みかん

くだもの少ない冬のビタミン源として最も日本人になじみ深いのが「みかん」。牛乳の3倍ものビタミンB₁が含まれ、そのうえ牛乳にはないビタミンCもたっぷり、さらにAもB₂も……というのですから、この時期まさに格好の果物です。

静かな冬の夜、たまにはコタツにでもあたりながらみかんでも食べつつ、家庭サービス、忙しい年末商戦の鋭気を養うひとときです。

こんな時にお父さんの博学ぶりを発揮するゲームをひとつ。皮をむいていないみかんの房の数当てです。タネを明かせば簡単なこと、みかんの上の緑色のヘタを取ると

頬を刺す北風の季節、でもポケットに手をつつ込んで、背を丸めてなんかいないでしようね。天気の良い日は率先してバイクに乗る、そんな姿勢こそお客さんの共感を呼ぶものです。(写真/オリオンプレス)

白い線が見えます。これはそれぞれの房に木の栄養を送っている管ですから、このトングリを数えれば房の数がわかるのです。

除夜の鐘

「何軒もの納車をすませて店に戻る時は夜もすっかりふけてしまうこともある。疲れたなあー、と思う反面、つくづくバイクを売っていて良かったと思う」という販売店さんの声を聞いたことがあります。

です。これそれですか?
108の鐘の音が嬉しかったこと、忘れてしまいたいことが去来して……。ところでこの除夜の鐘の108という数、108の煩惱をひとつずつ消すためといわれています。
108の煩惱とは、眼、耳、鼻、舌、身、意の六根と、色、声、香、味、触、法の六界が、それぞれ好、悪、平の不同があるので計36。それが過去、現在、未来の3つあるので108となるのだそうです。そしてこの108つ目の鐘が鳴るのは新年になってからです。



エサの文句もいけません。小屋がせまくてもいいです。だから……



安全と保険を軸に、 自分にしかできない 仕事をめざしたい!

沼 咲子さん

沼サイクル商会・沼靖雄社長夫人

夫婦というものは、えてしてお互いの足りない部分を埋め合うことによつて、うまく関係が成り立っている。たとえば、夫が無口であるならば妻がそれを補なうように社交的な性格の持主であったり、またその逆に、ちょっとあわて気味の奥さまに対して旦那さまが慎重な性格の持主であったり。その性格はもちろんのこと、考えや行動がうまくプラス・マイナスされてこそ、つり合いもとれるというものなのである。

とするならば、ここにご紹介する沼サイクル商会(沼靖雄社長)さんのご夫婦はどういうことになるのだろうか。とにかく、お話を聞いた限りではご夫婦ともに埋め合うような欠点はどこからも見つけることができなかったのだから。なかでも、奥さま・咲子さんの家庭とお店の両面にわたる活躍ぶりには近所でも評判で、その持ち前の行動力はまさに、「スーパー」という形容にふさわしいバイタリチに溢れているものなのである。

冒頭から、お二人のチームワークなどという立ち入ったお話をうかがって誠に恐縮なんです。呼吸ピッタリの仕事ぶりには何か特別な理由があるのでしょうか?
「いえ、皆さまがおっしゃる程、チームワー



クがいいなんてものではありませんよ。

ただ、うちの場合、主人がどちらかといえど物事を大局的に判断するほうなので、何についても方向付けだけはお願いしているんです。私はそれに従うだけの話。

しいていえば、お互いの責任分担を明確にしているからではないでしょうか。

それにしても、咲子さんの行動力はもっぱらの評判ですが?

「これでも行動力ということになるのでしょ

うかネ。もちろん、私の性格は家にこもるより外に飛び出した方が似合っているんですけど、そんなに他店の奥さまがたより抜きで商売に積極的というわけでもありませんから。

ただ、ひとつだけ自慢できるのは、二輪車安全運転推進活動と保険の普及に賭ける情熱」と、いいますと、具体的には?

「この2つは、私が子供から手が離れるようになって、実際に仕事にたずさわってから感じたことなんです。やはり、バイクとともに安全も売らなければとネ。

うちでは15年前から自動車賠償保険の代理を行なっていますが、私も3年前に総合資格を取得。今では、主人が新規開拓を、そして私は満期による継続を担当しています。

また、安全活動のほうですが、免許教室は もちろん、初めてバイクに乗るといってお客さまには必ず私の手で乗り方指導に心がけています。おかげさまで、二輪車安全運転推進委員会の審査にもパスすることができ、ようやく主人同様に準指導員の資格を取得、いよいよこれからのところですよ。」

社会的にみても、女性の活躍が目立っている

る昨今。いつてみれば咲子さんもその一翼を担っているわけですが、お仕事をされてのご感想など?

「女性って、意外と自分で限界を作りがちです。免許教室なんかに来られるお客さまを見てもそうなんです。説明を受ける前にエンジン、機械ものというところで拒否反応を起し、尻ごみしちゃうんですから。

でも、もっと積極的になつてもいいと思っ

てます。最初はそんなに大きなところから始めなくても、自分のできる範囲内で無理なく

ネ。私の初めての仕事は、まず帳簿整理から

そして、接客、保険、安全……と、徐々に仕事の範囲を広げていったもので、そうした中から私にしかできない仕事も見つけることができたんですから。」

咲子さんにしかできない仕事?

「そうです。特別に私に才能があるとか、技術をもっているとかではなく、今の私の立場をフルに利用した商売ということですよ。

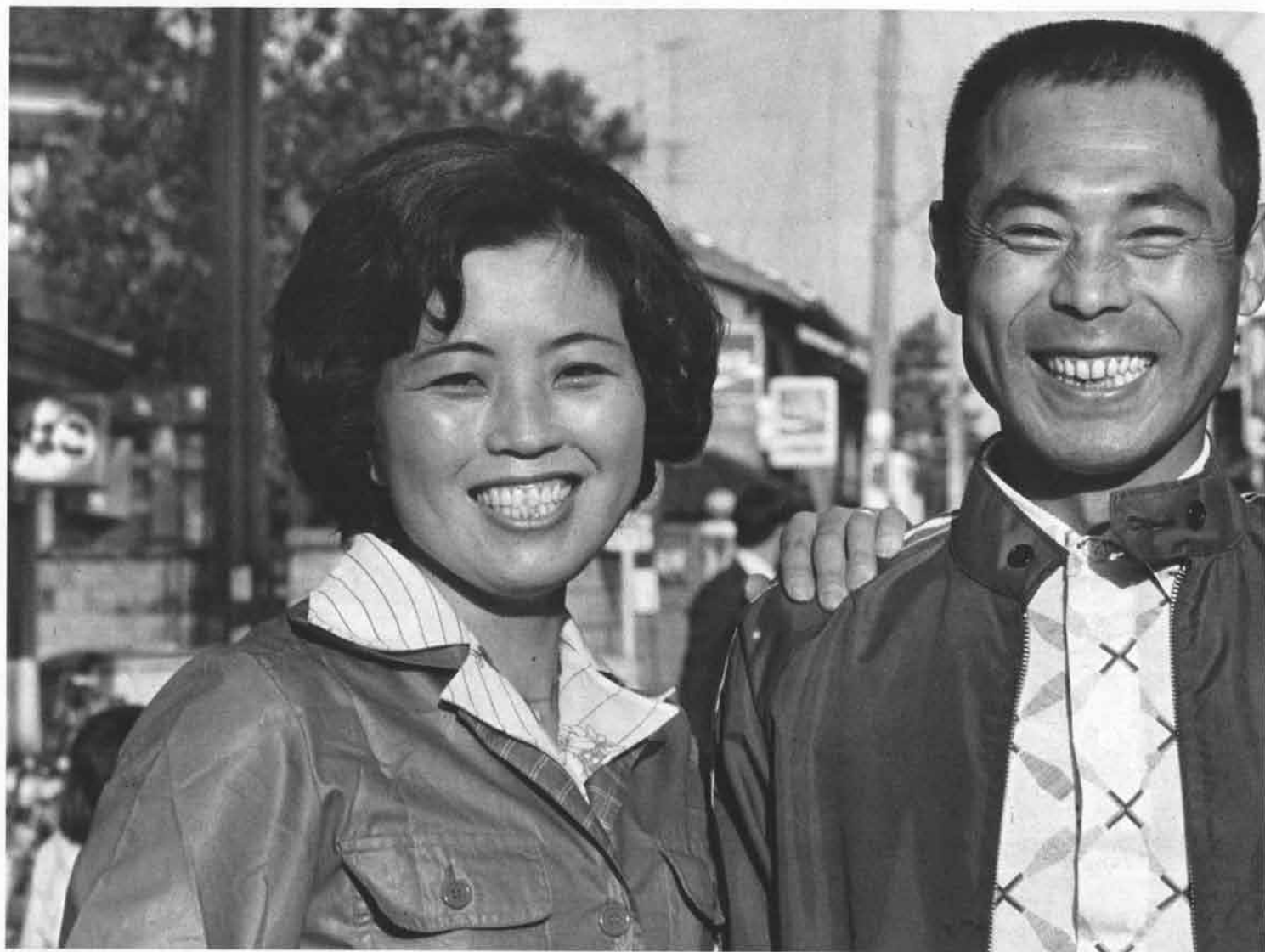
たとえば、PTAや婦人会の集まりを通して新規需要の喚起とか、保険の外交をきつかけとした代替とかは、主人には難しいことではないでしょう。確かに男にしかできない仕事もあるでしょうが、女にしかできない仕事だってあるはず。私の仕事に対する目標は、ひとつにこの幅を広げていくことでもあるんです。」

冬場は豪雪地として知られる高岡市の、いわばベッドタウンといわれる戸出町で、いまや沼社長の片腕としてさわやかな話題をふりまく咲子さんは、まさに実力の発揮どころという印象を与えてくれたものです。

(富山県高岡市戸出町2-10-29)



「いやあ、商売については沼社長以上にシビアですよ」とは中谷担当セールスマンの言葉



円満なのは、お互いの仕事の責任分担を明確にしているから

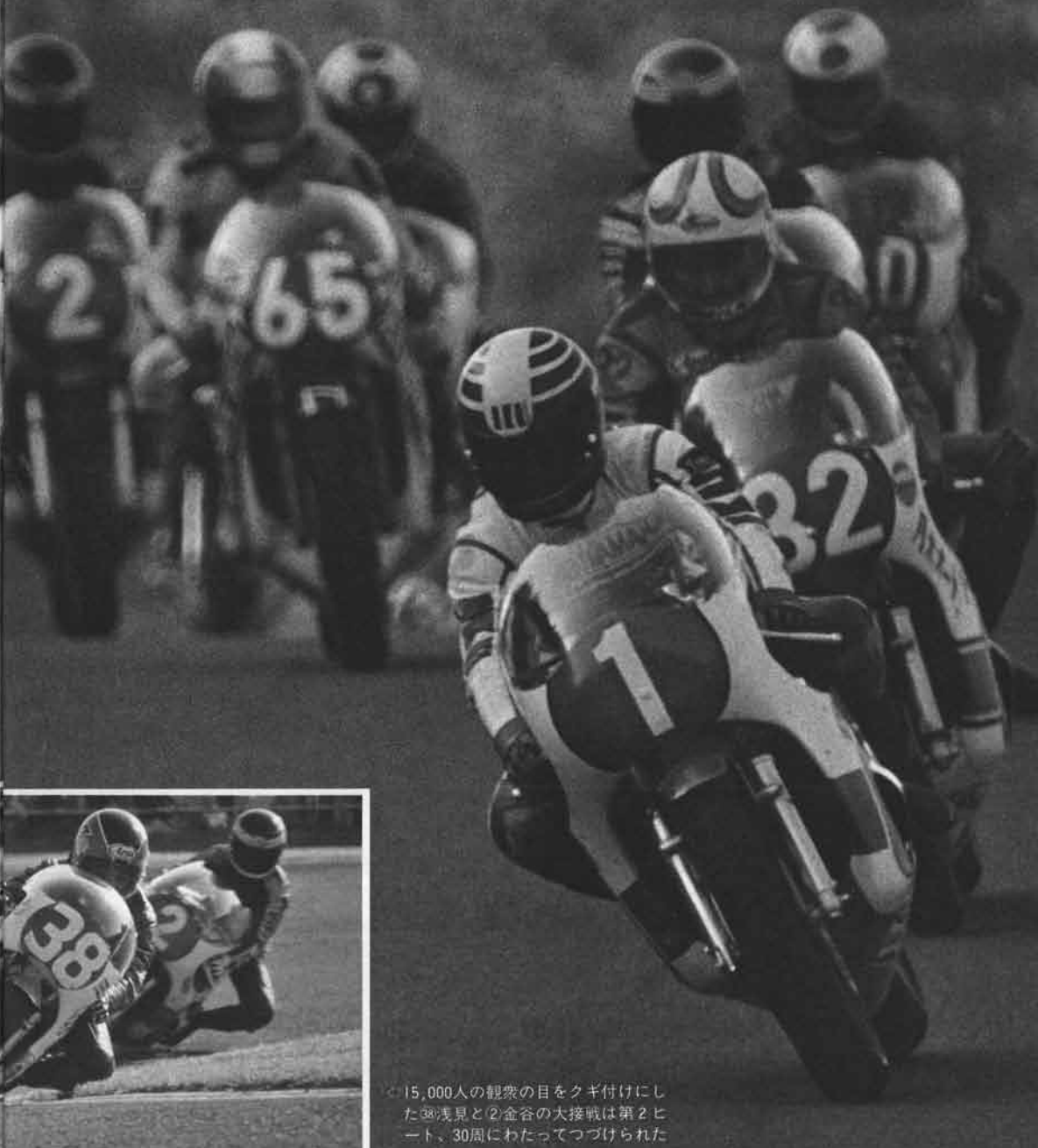


保険の外交やPTA等の集まりにはさっそうとバッソルで



この日は免許教室からのお客さま・橋本幸子さんへ乗り方指導も

MOTOR SPORTS



START
30秒前
SUGO



15,000人の観衆の目をクギ付けにした①浅見と②金谷の大接戦は第2ヒート、30周にわたってつづけられた

浅見貞男みごとな総合優勝

レースクイーンは、TVの人気者アン・ルイス

〈見て楽しむレース〉と〈参加して楽しむレース〉の両方の確立が急がれている日本のモータースポーツ界の現状の中で、総額500万円という多額な賞金を設定し、750ccビッグレーサーと第一線エキスパートライダーを結集したこの「TBCビッグロードレース」は、まさに〈見て楽しむモータースポーツ〉に焦点を絞ったビッグイベントとして、走る人、見る人、それぞれから大きな期待が寄せられたエポック・メイキングなレースである。

レースは第一ヒート、前日の予選で一分2秒16という菅生ロードコースのコースラップレコードをマークした高井幾次郎（YZR750）をポールポジションに、2台のYZR750、7台のTZ750D、5台のTZ350がスターティンググリッドに並んだ。しかし、高井（4周目）、金谷秀夫（13周目）、毛利良一（14周目）と注目のライダーが相ついでリタイア。波乱の中をアメリカ遠征から帰国したばかりの浅見貞男（TZ750D）が、30周を快走、みごとに第一ヒートを完勝した。

途中一時間半にわたるアトラクションは皆さんで再開された第2ヒートには、第一ヒートで左足を負傷した高井をはじめ、全ライダーが再び熱戦を再現。リタイアが続出した第一ヒートとは打って違って、各コーナーでのぎを削るデッドヒートを演じたが、中でも金谷、浅見のトップ争いはシ烈。再三順位が入れかわり、スタンドを総立ちにさせた好レースも、金谷がわずかに早くチェッカーを受けて第一ヒートの雪辱を果たした。

この結果総合では浅見貞男、上野慎一、石井康夫、糟野雅治の順。

第2回TBCビッグロードレースフォーミュラ750

15,000人をわかせた ビッグレーサーの白熱戦

'77年モータースポーツシーズンの最後を飾る注目の一大イベント「第2回TBCビッグロードレース・フォーミュラ750」が10月23日、めっきり秋の色も深まったスポーツランド菅生で開催された。

抜けるように高く晴れあがった青空のもと14台のビッグレーサーと日本のトップライダーがくりひろげた35周×2ヒートにわたる白熱戦は、つめかけた15,000人の大観衆にロードレースの醍醐味を強烈に印象づけたものであった。

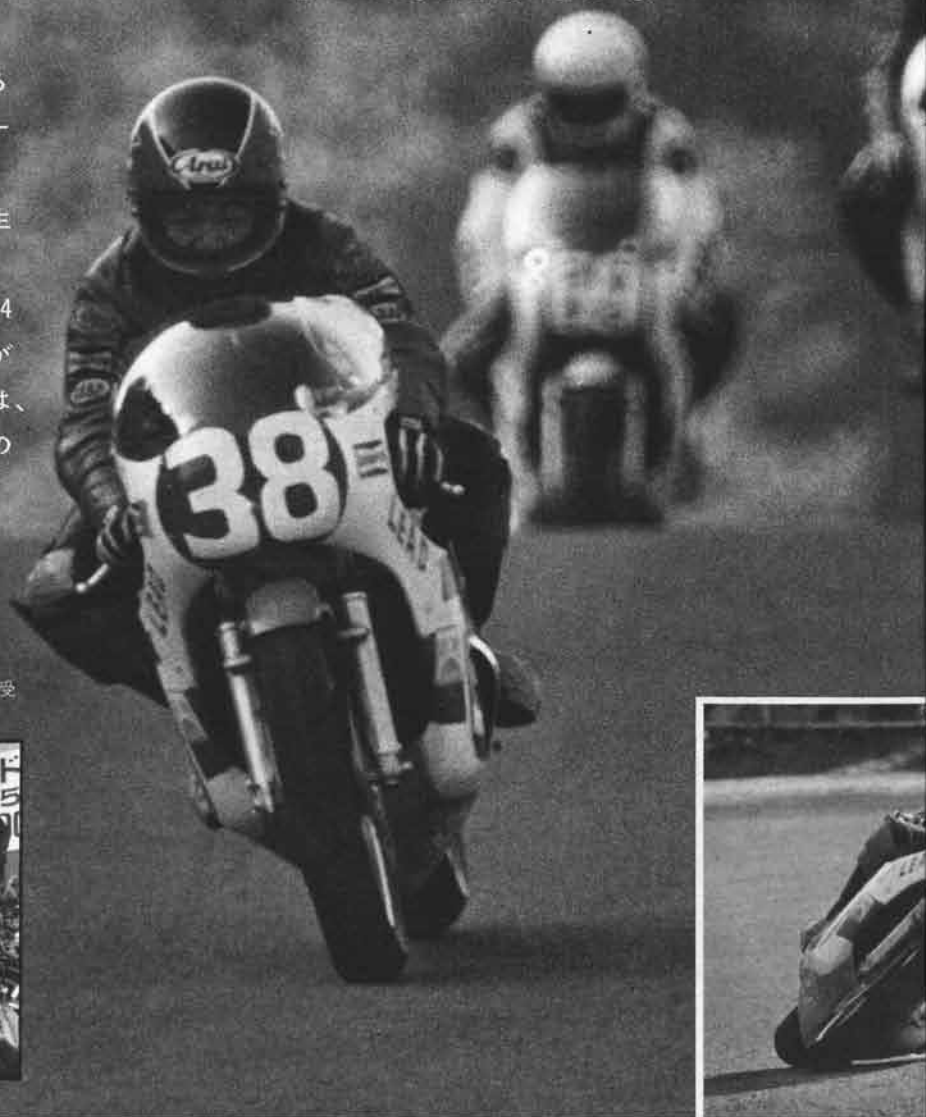
喜びの表彰台で主催者でもあるTBC（東北放送）のインタビューを受ける浅見（中央）、石井（右）、上野（左）の総合入賞者たち



合若手タレントの大挙出演で人気の「ヤングフェスティバル」には、糟野（左）、浅見、本橋明泰の選手、役員も登場、アン・ルイスの質問に軽妙に応じてロードレースのPRを
⇒今回もまたグラウンドスタンドは熱心なファンで埋めつくされた



こうして注目の第2回大会も、3500ccとの混合、ヤマハ車のみの出場という当初の懸念を吹き飛ばして余りある好レースを展開し、観衆、ライダー、出演歌手、一体となつてのアトラクションとともに大盛況のうちに幕を閉じた。



MOTOR SPORTS

★全日本トライアル選手権第6戦関東大会

意外、加藤文博5位に終る

チャンピオン決定は最終戦へ

小春日和に恵まれた10月23日、千葉県四街道町近郊のオートランド千葉で行なわれたトライアルチャンピ

オンシリーズ第6戦は、ヨーロッパの近藤博志(ホンダ)が減点4の好成績をおさめてベストパフォーマンス



復調に期待が集まる加藤文博

マンスII B Pを獲得、減点10で5位に終わった加藤文博(ヤマハ)を下して再び首位に立った。

この第6戦はひの木林の斜面を利用して作られた12セクションを3ラップ、エキスパートのみさらに4セクションを追加する都合40セクションでライディングのコントロールとバランスの妙技を競ったもの。

この40セクションで近藤は1、1、2、4、クリン37で終わったのに対し、加藤は1、1、3、5、10、クリン36で、結局3、5の失点がひびいて不本意な成績に終わった。

この結果、注目のタイトル獲得の行方は11月13日、鈴鹿サーキットで

★全日本カート選手権

逆転劇で菅家(A)、望月(SS)がチャンピオの座を獲得

「77ジャパンカートレース」の盛況

ぶりからもうかがえるように、来年

行なわれるシリーズ最終戦「第5回全日本トライアル選手権大会」にもちこまれるが、加藤はここでB Pをとつても、近藤がR Uとなれば次点に終る苦しい戦いとなった。Y T Tメンバーのいっそうの奮気が望まれるところだ。

なお、ランナーアップR Uは丸山胤保(ホンダ・減点8)、3位は黒山一郎(スズキ・減点9)、4位畑山和裕(ヤマハ・減点同じく9)、ジュニア部門は減点40、41、42、45、46の接戦で、菅幸三、村越文好、米沢満夫、山口滋で、両部門35名ずつ70名のライダーが参加した。



△激しい首位争奪戦を演じる⑦菅家安智と鈴木亜久里



○トップを走る②望月新一。エンジンはむろんヤマハ

度はさらに大きな飛躍が期待されているカート界だが、その日本一をきめる全日本カート選手権の最終戦が10月30日、埼玉県所沢市の所沢サーキットで行なわれた。

この全日本カート選手権はAクラスとSSクラスに分けられているもので、本年度は全6戦のシリーズが組まれ、その総得点でタイトルが決められる。

第5戦(清水)までの結果は、Aクラスが鈴木亜久里(チーム江藤)と菅家安智(R T・エリス)の一騎



05383-2-1111

内線355

こちらヤマハ発動機PR課です

お電話でも、おハガキでも、お気軽に楽しい話題、明るいニュース、これは/と思ふ情報をお知らせください。ご質問、ご相談、本誌へのご要望もどうぞ。原稿、写真のご投稿も大歓迎です。

宛先は 〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社・PR課

※ニュースによっては、編集部員が直接取材にお伺いいたします。

討で48対47の一点差で鈴木亜久里がリードしていたが、第6戦で菅家が優勝、鈴木は2位で、菅家の逆転優勝で第5代目のチャンピオンとなった。いっぽうSSクラスも劇的な逆

世界チャンピオンの 栄光をおみやげに 片山敬済選手、凱旋帰国

77年の世界選手権ロードレースGPシリーズ・350cc級にヤマハTZ350を駆って出場し、みごと日本人として初めての世界チャンピオンを獲得した片山敬済選手が、10月25日、元気に日本に帰ってきた。

「チャンピオン帰国」のニュースに羽田には約30名近い報道陣も集まり、記者会見も開かれたが、レース活動でも最良のパートナーであるエリ子夫人と姿をみせた片山は、「決して楽なシリーズではなかった。周囲の人



◇MFJ代表より世界チャンピオンの認定証を受ける片山敬済(左)とエリ子夫人

転がなり、第5戦まで4位にいた望月新一(チームカラス)が第6戦で優勝、それまでトップにいた李好彦に7ポイント差でチャンピオンをかちとった。

々の暖かい支援に、いま心から感謝している」とチャンピオンの栄光を

日本の地でじっくりとかみしめている様子。

矢つぎ早の質問にも堂々と応対する姿には、「プリンス」と呼ばれた二年前までから、ひとまわりも、ふたまわりも成長した姿を感じさせ、来シーズンは、350ccと500ccの2クラスに出場する予定、そして最終的にはG・アゴスチーニのタイトル15回を上まわるような立派なチャンピオンになりたい」と語っていた。彼の今回の帰国は、日本における歌のレコーディングが主な目的のことだが、彼の来シーズンの活躍が早くも大きな期待を集めている。

SALES INFORMATION

ファミリーバイク運動会で 盛り上げる需要創造活動

津島市・イトーモータース



〔株〕第一自動車 愛知県津島市にある「イトーモータース(伊藤敏雄社長)」さんは、モータースポーツ

クラブ・東海スポーツライダーズで知られるお店。それだけに、ロードレース、モトクロスはもちろん、ツ

デザイン・機能にすぐれた 新型ヘルメット2種



LF-1



FS200フルフェイス型

●LF-1

女性用ヘルメットの新型。白の帽体に赤、白、オレンジ、青のふちどりが、デザインをよりいっそうひきたてています。FRP製、SGマーク認定品でJIS1種相当品。サイズはフリーですが同梱のウレタンフォームを使用することにより、自分のサイズに合わせることができます。

価格：4,300円

部品番号：赤90890-51230、白 90890-51231

オレンジ90890-51232、青90890-51233

●FS200フルフェイス型

軽さ、視界の広さ、かぶりやすさと3つの条件を満足させたFS200フルフェイス型。もちろん耐久性は従来のものより一段と高め、内装も充実。また、前面から後部へと流れるラインのスコッチテープを貼り、夜間の視認性を高めると同時に、デザイン的にもいっそう精悍さを強調しています。カラーは、黒、黄、白の3色。サイズは、S、M、L、XL。

価格：12,000円

部品番号：黒(S)90890-51234、(M)90890-51235

(L)90890-51236、(XL)90890-51237、

黄(S)90890-51238、(M)90890-51239

(L)90890-51240、(XL)90890-51241

白(S)90890-51242、(M)90890-51243

(L)90890-51244、(XL)90890-51245



ーリング、ラーリング、免許教室と幅広い需要創造活動を展開しています。それというのも、以前モトクロスで活躍した長男の憲尚さんを頭に3人の息子さんが、がちりとチームワークを組んでお店を盛り立てているからです。

さて、この伊藤モーターズさんでは10月23日、津島総合グラウンドにてパッソル、チャビイを中心としたファミリーバイク運動会を開催。お客さまへのサービスとともに、お店のPRにも大きな成果を収めました。

秋晴れの「運動会日和」に恵まれたこの日、延べ100名近い参加者たちは、遅乗り競技、パン喰い競争、アベックレースなど10種類ほどの、ファミリーバイクを使った楽しい競技に興じていました。

この日、ひとつの呼び物となったのは、お昼休みに行なわれた正しい乗り方講習会です。会場が総合グラウンドの一角ということで、野球やテニスに来ていた人々も参加し、憲尚さんやクラブ員の指導よろしきを

バイクで生活圏を広げよう

主婦向けTV番組からの提案

プロ野球の完全中継や人気映画の放映、そして地域社会に密着したニュースや話題の提供で評判のUHF局テレビ神奈川で、このほどヤマハ免許教室と乗り方教室がとりあげられ、ヤマハ神奈川(株)青山営業主任がパッソルやチャビイ、RD50と共に出演しました。

この日、ひとつの呼び物となったのは、お昼休みに行なわれた正しい乗り方講習会です。会場が総合グラウンドの一角ということで、野球やテニスに来ていた人々も参加し、憲尚さんやクラブ員の指導よろしきを

得て、20名以上の受講生はたちまちスイスイ。

こうして伊藤モーターズさんは、お客さまともども楽しみながら、有益な需要創造活動のいち日を送ったものです。

のワイド・リビング・ポート」宮脇の部屋。生活を広げよう・女性の足特集」で放映されたもので、若松幸子アナウンサーの「ヤマハ免許教室体験レポート」をおこみながら、ポビイの推奨広告にもご登場いただいた宮脇さんと青山営業主任の対談形式で、50ccバイクの効用性が紹介されたもの。



生活を広げる・女性の足特集のテレビ放映



中高年の方も参加して、おなじみのヤマハ乗り方教室(ヤマハ神奈川)

初心者を集めて 安全運転の徹底指導

原付車安全運転実技指導会

若松アナウンサーの「ふつうの運動神経で自転車に乗っている人なら誰れでも乗れる、私は30分ぐらいで乗れるようになった。とても嬉しかった」という感想から、「今は女性の方、とくに近郊では主婦の足として生活に役立っている50ccバイク」の現況が青山主任から語られ、バイクはすでに女性の乗りものとして受け入れられている、こうした足を使ってあなたも生活圏を広げてみませんか、それが私の提案です」と宮脇さんが結びました。

(ヤマハ京都) 原付免許取得者の増加にとまない、原付ユーザーを対象とした安全運転講習会が各地で積極的に開かれています。去る10月23日には京都府山科市内の洛東自動車教習所で、京都府二輪車安全運転普及協議会主催の原付車安全運転実技指導会が開催され、バイクに乗ってまだ1週間というユーザー64名による乗り方訓練が行なわれました。

特別指導員5名、準指導員5名の合わせて10名のインストラクターの指導の下、まずは基本動作の説明から始まった指導会は、途中「今日の道はもう明日は同じ道ではない」との山科警察署・上田交通課長の挨拶をはさみ、さらに一本足走行、S・クランク走行、パイロン走行、踏切・上り坂走行等がスムーズに行なわれたのですが、参加した原付ユーザーは皆、「これで明日から安心して乗れる」と顔に汗を流しながら笑顔で語っていました。



走行メーター10km弱の愛車に乗っての実技指導は10名のインストラクターによって

人気のパッソル 日本グッドデザイン展に



ソフトバイク「パッソル」がGマーク商品に選定されたことは先にお伝えしたとおりですが、このGマ

ク商品選定制度の20周年を記念した日本グッドデザイン展がこのほど東京・日本橋の高島屋と神戸・三の宮

おつ、
ファッショナブル
バイク

パッソルは今や女性のアクセサリー。でも、パッソルとともにヘルメットもアクセサリーのひとつであることをお忘れなく。(女性雑誌・ノンノより)

お買物ラクラク。
**ヤマハパッソルが
100台当る!**



ご存知ですか?。今、新聞や車内広告等てしきりに宣伝されているこのキャンペーンを。
実はこれ、「タカラみりん」でおなじみの宝酒造株式会社が実施している「タカラみりん感謝祭」のクイズ告知。だれでも気軽に乗れる人気のソフトバイクでお買物に行ってもらおうと、宝酒造株式会社がパッソルを100台用意したのですが、早くも全国の奥さま方の間で大評判となり、関係筋ではその応募状況に注目が集められているものです。

好評! パッソル乗り方教室

大学祭を舞台にバイク普及に大活躍

「文化の日」といえば大学祭シーズンの真っ盛り。ここ東京は豊島区目白にある学習院大学もその例にもれず、去る11月3日から6日にかけて第8回学習院大学祭が開催されました。人間の回復をテーマに、各クラブおよび同好会ではそれぞれ創意と工夫で数々のイベントが繰り広げられたのですが、なかでも多くの女子学生の人気を独占したのが、当大学モーターサイクルクラブ主催に

よるパッソル乗り方教室でした。さわやかな風を受けて走るバイクの楽しさは、えてして男性だけのものと受けとられがち。そんな誤った認識を捨て去り、広く女性にもバイクの爽快さを理解してもらおうとの企画は、クラブ員の予想をはるかに上回る大当たり。女性のバイクに対する関心の高さもさることながら、パッソルの人気に今さらながら驚いていたものです。



日頃は、メカに情熱を燃やすクラブの面々も、この日はやはり、やさしさ、オンリー。かわいい女子学生を前にして、乗り方の説明もちょよびり上り気味でした。

ファンタジックな樹氷の輝き 漁岳アタックの スノーモビリング・ルポ

さつぽろスノーモビルツアークラブ



広野を雪煙を上げて豪快に走り回れる姿を見てから、早や10年は経ったと思う。業務用に、またレジャー用にと、いまやスノーモビルは幅広く普及しているが、今回の漁岳アタック・スノーモビルツアーは、まさにこの醍醐味を味わうべく北海道の山々を継走してきた登山好きの川島・小川両氏が計画、そして札幌・アメヤマモーターサイクルを拠点とする

標である漁岳が一望できる。

夏山登山者ならば、一日がかりでここまで位だろう。だが、スノーモビルであればアツと言う間だ。見晴らしピークの東側は傾斜を舍めた広々とした丘があり、スノーモビルの走行にはうってつけ。マップで次のコース上の尾根を確認し、さらに奥へ向かう。樹氷の間をぬって走るならかな上り下りの連続は



樹氷の中でひと休み。美しい景色を目前に疲れも忘れる

シーズン・イン スノーモビル

広大な雪原を走る美しい雄姿。風を切り、樹氷の合い間をくぐり抜けるアドベンチャー＆ロマン。白銀の世界の訪れとともに、いまここにスノーモビル・ツアーのシーズン幕開けを迎えています。

ここにご紹介するのは、本年4月に行なわれたさっぽろスノーモビルツアークラブの漁岳アタック・レポート。皆さまのお店のお客さまにも是非ともこの豪快で、ロマンあふれるスノーモビル・スポーツの世界をお伝えください。

◇見晴らしピークから一気に漁岳へ

◇シラカバ林をくぐりぬげると小漁岳が目の前に



「さっぽろスノーモビルツアークラブ」のメンバーによって実現されたものである。

* * *

札幌は霧雨、市内の道路の雪は消え、黒々とつづいている。早朝、川島氏宅に集合し、一路、中山峠(800m)に向かう。約1時間で到着し、さっそく出発準備だ。今日は快晴である。約2週間前、コースの下見に来て吹雪にぶつかり、散々な目に合ったのがうそのようである。自然と皆の顔がほころぶ。

中山峠から見渡す山々は見渡すかぎり真白な雪である。山の気候は変わりやすい。地図、コンパス、食料、装備を完全にして、中山峠から宝来山(800m)の約2kmのコースを一気に走り上った。西方に羊蹄山をはっきり見ることが出来る。実に美しい。周りの木々を見て、また驚いた。すべての木が樹氷である。それも透明な樹氷で、太陽の反射にまるで木全体が宝石の輝きのようである。しばし皆してウットリ。

四ツ橋氏は当クラブの会長であり、スノーモビル・キャリアの長いスピード派である。しかし、今回の計画には、当初あまり気乗りがしないようであったが、ここまで来て山岳ツアーの楽しさを感じたようである。ここまでで引き返しても、もちろん十分価値があると思われるが、我われはさらに素晴らしいことが期待できそうな奥地へと進路をとる事にする。

しかし、一瞬不安がよぎる。熊の出没がある。先日、下見に来た時もハンター数名がスノーモビルに乗ってこの近辺を回っていたのを思い出すが、スノーモビル4台の力強い音を聞けば熊も近寄らないであろうと考える。ただ皆とは離れないように走行する。やはり一人では気持がわるい。

約5km、なだらかな上り下りの連続を木々の間をくぐり抜けるように、また直線をフルスピードで走るうちに高いピークに出会う。地図上では1,037mである。特に見晴らしがよいので見晴らしピークと名付ける。ここ(約20度の傾斜)を一気に登りきると、北に無居根岳、アサリ岳、右に視線を移し札幌岳、空沼岳ともうひとつ、今回の私達のアタック目

まさに最高。天気も上々、エンジンも快調ですべて最高である。

中山峠から約16km地点の所に小漁岳が、左手いっばい視界に入ったその奥が漁岳である。小漁岳から漁岳に直登と考えたが、事前に深い谷があることがわかり直登を断念。左手に小漁岳を見ながら直進してフレ岳回りアタックすることにした。

やや急な坂をどうにか登りつめ気持ちよいスピードで走っていると、突然眼下に支笏湖が見えた。こんな近くに支笏湖があるなんて思ってもいなかったのだ、ただ驚くばかり。山々をスノーモビルで走行すると、時間と距離の感覚が変わってしまうのだろう。この地点から眺める支笏湖は格別である。左に札幌オリンピックにも使用された恵庭岳が、そして支笏湖の向うには樽前山が一望できる。

ドキッとすることが起った。我われのいる所が雪の上であったのである。もう少し前に出ていたなら、スノーモビルもろとも約100mは下に落ちていたであろう。急いで後に下がった。木に凍りついてた樹氷が、太陽の直射を受けてパラッ、パラッと落ち出した。その音のまたよいこと、周りの木々から一斉に音がする。

雪ピ上を左に移動し小漁岳にアタックする。しかし、途中まで走行すると急な傾斜を横断しなければならぬ場所が長く続く。下調べに行つたが、どうも無理のようである。ここで断念せざるを得ない。とはいえ皆は満足感でいっぱいである。もう十分である。十分すぎる位スノーモビルのダイナミックな走りを、そして純白におおわれた大自然の美しさを味わった。皆で童心に帰る、尻すべりだ。その後、昼食。空気もうまい、飯もうまい。

(撮影・レポート/小倉千明)

〔漁岳アタック・スノーモビルツアー〕

○とき/昭和52年4月27日

○ところ/北海道・中山峠・漁岳

○走行距離/片道・地図平面にて20km

○参加メンバー

四ツ橋弘善(GP440)、川島真也

(GS340)、小川洋(ETT250)

岸孝一・小倉千明(S300M)

特殊工具キットご紹介

師走に入って、商売の足として使われているバイクにトラブルがないように、また寒冷地などでは積雪や寒風のために冬ごりに入るバイクも少なからず見受けられ、定検整備やオーバーホールなどのサービス作業も多くなるのがこのシーズンです。そこで今月は特殊工具のキットをご紹介します。正確な作業をスピーディにこなすために、お店にとって欠かすことのできない工具が特殊工具です。

●工具Aキット —— 2サイクル車175cc以下

No.90890-01999
¥14,800



品名	個数	使用モデル
クラッチボスホルダー (クラッチ廻り止め工具)	1個	DT90/125・RD90/125 TY125/175・YB125・YZ125
クラッチボスホルダー (クラッチ廻り止め工具)	1個	チャビィ50/80・GR50/80・RD50/60・ MR50・GT50/80・TY50/80・YB50/90
マグネットホルダー (フライホイールマグネト押え)	1個	全車種
クランクケースセパレーター (クランクケース分解工具)	1セット	左右分割クランクケースタイプの全車
クランクセッティングツール (クランクシャフト嵌込工具)	1個	上記に同じ
クランクセッティングボルト (クランクシャフト嵌込工具用ボルト)	1個	YB125・RD125・Vメイト(セル付)
クランクセッティングボルト (クランクシャフト嵌込工具用ボルト)	1個	Vメイト・RD・YB・チャビィ各モデル DT・TY・YZ各モデル
マグネトブラー (フライホイールマグネト抜き工具)	1個	DT・TY・YZ各モデル
エキゾーストパイプレンチ (エキパイリングナット用)	1個	フライホイールマグネト全車
ステアリングナットレンチ	1個	全車種
メーターギアブッシュツール(スピードメーターギア、シュープレートよりの取外し)	1個	全車種
ツールボックス	1個	

●工具Bキット —— 2サイクル全モデル

No.90890-01998
¥18,390



品名	個数	使用モデル
クラッチボスホルダー (クラッチ廻り止め工具)	1個	DT90/125・RD90/125 TY125/175・YB125・YZ125
クラッチボスホルダー (クラッチ廻り止め工具)	1個	チャビィ50/80・GR50/80・RD50/60・ MR50・GT50/80・TY50/80・YB50/90
クラッチボスホルダー (クラッチ廻り止め工具)	1個	RD250/350・DT250/360/400 TY250・YZ250・XT500・GX500
クランクケースセパレーター (クランクケース分解工具)	1セット	左右分割クランクケースタイプの全車
クランクセッティングツール (クランクシャフト嵌込工具)	1個	上記に同じ
クランクセッティングボルト (クランクシャフト嵌込工具用ボルト)	1個	YB125・RD125・Vメイト(セル付)
クランクセッティングボルト (クランクシャフト嵌込工具用ボルト)	1個	Vメイト・RD・YB・チャビィ各モデル DT・TY・YZ各モデル
クランクセッティングツール用スぺーサー	1個	DT250/360/400・TY250 YZ125/250
マグネトホルダー (フライホイールマグネト押え)	1個	全車種
マグネトブラー (フライホイールマグネト抜き工具)	1個	フライホイールマグネト全車
アマチュアショックブラー用ウエイト	1個	DOゼネレーター車・全車種
アマチュアショックブラー用ウエイト	1個	DOゼネレーター車・全車種
エキゾーストパイプレンチ (エキパイリングナット用)	1個	全車種
ステアリングナットレンチ	1個	全車種
メーターギアブッシュツール(スピードメーターギア、シュープレートよりの取外し)	1個	全車種
ツールボックス	1個	

●工具Cキット —— 4サイクル車

No.90890-01997
¥37,880



品名	個数	使用モデル
クラッチボスホルダー (クラッチ廻り止め工具)	1個	GX(TX)500・XT500
クラッチボスホルダー (クラッチ廻り止め工具)	1個	TX650/750
クランクセッティングツール用スぺーサー (クランクシャフト嵌込工具用スぺーサー)	1個	XT500
スパークプラグレンチ	1セット	GX(TX)500
ピストンライダー (シリンダ装着時のピストンリング押え工具)	2個	TX650/750
ピストンベース (シリンダ装着時のピストン固定板)	2個	TX650/750
バルブスプリングコンプレッサー (バルブ取外し用工具)	1個	4サイクル車全車種
カムチェーンツール (カムチェーンの切断、かしめ工具)	1個	4サイクル車全車種
ロッカーアームシャフトブラー (ロッカーアームシャフト引抜き工具)	1個	GX(TX)500・TX750
ロッカーアームシャフトブラー用ウエイト	1個	GX(TX)500・TX750
クラッチアジャスティングツール (クラッチ作動調整工具)	1個	GX(TX)500
ソケットアダプター(10mm) (シリンダヘッドボルト用)	1個	GX(TX)500
ソケットアダプター(17mm) (フロントフォークキャップボルト用)	1個	TX650/750・GX(TX)500
ドライブチェーンツール (ドライブチェーンの切断、かしめ工具)	1個	4サイクル車全車種
ドライブチェーンツール用アタッチメント	1個	XT500
ローターブラー (ACゼネレーター用ローター抜き工具)	1個	TX650
ローターブラー (ACゼネレーター用ローター抜き工具)	1個	GX750・TX750・GX(TX)500
ツールボックス	1個	

「クロ・モリ」フレームに「アルミ合金製」リヤフォーク

'78 YAMAHA YZ125/250

新発売

YZ 125



YZ 250



新鮮なグラフィックも印象的な'78
ニュー「YZ 125」と「YZ 250」

モトクロス界のリーディングマシン「ヤマハYZ125」「ヤマハYZ250」の'78モデルが完成、12月1日を期して新発売です。

勝利こそすべて——。「YZ」に課せられた宿命ともいえるべき愛好家の熱い期待に応えて登場した'78モデルは、性能面はもとより整備性、安全性など、総合的な戦闘能力をまた一段と高め、いまやワークスマシンに匹敵する内容を備えるものです。折から来シーズンはMFJ、MCFAJの選手権シリーズ、ブロック戦に加えてSLモトクロス活動も再び活発に展開されることになっています。代替えに、そして新しいスポーツ人口の拡大、育成に'78モデルの「YZ」をご拡売ください。

徹底した軽量化で戦闘能力を向上

「クロ・モリ」フレームに、「アルミ合金製」リヤフォーク——表題にもあるように、'78YZは125、250とも徹底した軽量化が図られ、戦闘能力を向上したことが大きな特徴です。フレームは、従来は高張力鋼管を主体に構成していましたが、ライダーの技量向上にともなうレース内容の高度化に合わせて、より軽く、より強く仕上げるためにクロムモリブデン鋼管を使用、さらにリヤフォークすなわちモノクロスサスペンションのスイングアームはアルミ合金製としました。これら材質面の品質向上はワークスマシンの設計に準ずるもので、そこから得られる重量の軽減はエンジン性能を実質的に高めているほか、例えばフレーム側にも上下2個所にローラー式チェーンテンションナーを追加するなど、より充実した機能部品の新設も大胆に行なえるものとして戦闘能力の向上をひきだしています。

とくに「YZ125」ではスイングアームのピボット軸にニードルベアリングを採用●クッション性能を

一段と高めたことは'78モデルのかくされた大きな特徴です。エンジンも一見しては気づきませんが●シリンダーフィンを1枚増加。また●ポートタイミングを改善●従来に増して高速で伸びがき●中速域でリキのあるものとしたほか●ピストンリングを2本化●性能の安定化を図ると共に耐久性の向上につとめました。

いっぽう「YZ250」では●エンジン設計を一新●従来に増して小型・軽量化を果すと共に●リードバルブの大型化●38口径キャブ●2本ピストンリング●容量アップの排気系などから●最高出力を2馬力アップ(36PS/8000rpm)●6速ミッションを装備しました●エキパイのジョイントも新たにリングナット式としています。さらに●フロントフォークは嵌合長を20mm増大●摺動性を向上●ハンドルレバーも「YZ125」と同様に使いやすいマグラータイプとしました。このほか両モデルともに部分的に大小の改良箇所がありますが、専門的な分野についての紹介はサービスマニュアルにゆずります。

仕様諸元

	YZ125	YZ250		YZ125	YZ250
全長	2100mm	2145mm	エヤクリナー	湿式モルトブレン	湿式モルトブレン
全巾	900mm	910mm	1次減速(比)	ギヤ(71/22=3.227)	ギヤ(60/23=2.608)
全高	1180mm	1180mm	2次減速(比)	チェーン(51/12=4.250)	チェーン(50/13=3.846)
シート高	905mm	910mm	クラッチ	湿式多板	湿式多板
軸間距離	1420mm	1450mm	変速機	6段リターン	6段リターン
最低地上高	295mm	300mm	変速比1速	32/13=2.461	31/13=2.384
乾燥重量	86kg	98kg	2速	30/16=1.875	29/16=1.812
エンジン	7ポート・トルクインダクション	2サイクル前傾単気筒	3速	27/18=1.500	26/18=1.444
排気量(内径×行程)	123cc(56×50mm)	246cc(70×64mm)	4速	25/20=1.250	22/18=1.222
圧縮比	7.7	7.3	5速	24/22=1.090	23/22=1.045
最高出力	25.0PS/11000rpm	36.0PS/8000rpm	6速	23/23=1.000	24/26=0.923
最大トルク	1.60kgm/10500rpm	3.35kgm/7000rpm	フレーム	クロムモリブデン鋼管セミダブルクレードル	クロムモリブデン鋼管ダブルクレードル
始動方式	プライマリキック	プライマリキック	キャスト	30'	30'30'
点火方式	C.D.I	C.D.I	トレール	133mm	134mm
燃料タンク容量	5.8ℓ	7.8ℓ	タイヤ寸法(前)	3.00-21-4PR	3.00-21-4PR
潤滑方式	混合潤滑式(20:1)	混合潤滑式(20:1)	(後)	4.10-18-4PR	5.00-18-4PR
発電種類	C.D.Iマグネー(日立)	C.D.Iマグネー(日立)	ブレーキ前後	機械式ドラム	機械式ドラム
点火プラグ	チャンピオンN-59G	チャンピオンN-2G	懸架緩衝装置(前)	テレスコピックオレオ(オイル+エアスプリング)	
キャブレター	VM32SS	VM38SS	懸架緩衝装置(後)	D・カルボン式モノクロスサスペンション	

※ハイオクタンガソリンをご使用ください。※オイルはヤマハ純正レーシングオイルまたは相当品(シェルスーパーM、カストロールR30)をご使用ください。

オプションパーツで モトバイク・スペシャル

ライバルに差をつける!

精巧なモトバイクをオプションパーツで、さらに研ぎすまそう。性能もスタイルも、たぐいせんアップ。力強くペダルを踏んで、道なき道もいっく走る。——いま、モトバイクのライバルはモトバイクだ。



●3段階調整可能なミラーセット。3段調整で、20%下の威力を確保。



●ワザで便利なリヤキャリア。バイクを1人の力で持ち上げられる。



●フラッグが、これまたバイク顔負け。サンバイザーとフラッグとの組み合わせは、バイクの個性を演出する。



●夜間走行の安全を守る。大型ヘッドライト、強力補助ライトのブランクフェイスの左右2灯2灯。

●さらにサンバイザーと防眩のヘッドライト。モトバイクの顔に、モトバイクの個性を演出する。

●音の威力を演出する。オートマチックのサウンドシステム。オートマチックのサウンドシステム。

Oh, Good looking!
Just a Trail bike.



●オプションパーツは、お望みのものだけを選んでいただけます。

YAMAHA MOTO-BIKE
ヤマハ発動機株式会社

ヤマハモトバイクがオプションパーツで一段と精悍にダイナミックに変身——これは只今お店にお届けしておりますヤマハモトバイクの新しい商品ポスターです。ディレクター、スピードメーター、バイクをつくりのリヤキャリアとフラッグ。そしてヤングに圧倒的人気のヤマハバイクGT50のヘッドライトとバックミラーなど。性能・安全性・スタイル、どれをとってもグリーンとアップ。「差をつける」オプションパーツで、独自のモトバイク・スペシャルをお客さまにおすすめください。